

平成26年度 学校自己評価システムシート (熊谷市立妻沼東中学校)

目指す学校像	「生徒が自分と自分の学校に日本一の誇りを持って卒業することができる学校をつくる」
--------	--

重点目標	1 小中一貫した学習指導、生徒指導の着実な定着。 2 3S運動を核とする生徒主体の活動の推進。 3 保護者や地域との連携により開かれた学校づくり。 4 安らぎのある環境づくりに取り組み、よりよい校風づくり。
------	--

達成度	A	十分に達成(9割以上)
	B	達成(8割以上)
	C	あと一步(6割以上)
	D	努力を要する(6割未満)

出席者	学校関係者 5名 事務局(教職員) 3名
-----	-------------------------

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	○ユニバーサルデザインを意識した授業を年間を通して実施し誰にでもわかる授業を構築させる。 ○妻沼東中学区3校の小学校との連携を強化し、授業規律を定着させる。	○小中一貫した学習指導を意識することはできたか。 ○学習内容を明確にした誰にでもわかる授業の工夫がなされたか。 ○小学校からの一貫性を意識した授業規律・生活規律をしっかりと取り組んでいるか。	①「ユニバーサルデザイン」を意識した授業を展開する。 ②長期休業中、朝トレ週間を設け基礎的・基本的内容の反復練習 ③各種学習状況調査や「社会に通用する妻沼っ子」の検証	①校内研修の実施 ②長期休業中、朝トレ週間を設け基礎的・基本的内容の反復する場面を導入。 ③各種学習状況調査や「社会に通用する妻沼っ子」の検証し、指導方法等を共通理解。	①校内研修はほぼ計画どおりに実施。 ②基礎的・基本的なことの反復練習実施。 ③家庭学習の習慣化が図られていない。	B ○昨年度までの取組をもとに小学校との連携をさらに深め継続を進めていく。 ①各教科部会の計画的実施や研究授業の実施による授業力の強化 ②朝トレ週間の継続。 ③家庭学習ノート、1日1ページ以上の実施、提出。
2	○3S運動(静かに・最後まで・清掃する)をキーワードとして生徒会整備委員会を中心とし生徒全体で意識付けを図った。 ○教職員が率先して校内の環境整備を行うことで、生徒・地域の意識が変わった。	○教室環境の整備が行えたか。 ○生徒と教職員の共働による清掃活動、掲示活動の充実に努めていたか ○生徒の清掃に対する取組(無言膝つき清掃)は十分であったか。 ○3S運動を促進し、生徒の自主性を支援できたか。	①生徒会活動の中で自主的活動の推進を行う。 ②毎日の教師・生徒との共働で3S運動の評価につなげる。 ③生徒会による評価により、無言膝つき清掃への意識を高める。	①委員会の実践報告 ②生徒と教職員の共働による清掃活動、掲示活動 ③無言膝つき清掃への取組について生徒朝会で年間2回の表彰(「きらめき賞」)。	①無言膝つき清掃の取組に学年による生徒の意識の差があった。 ②各学年ともに、清掃後の反省会による確認を欠かさず行った。 ③無言膝つき清掃に対し、多くの生徒の意識化を図ることができたが、さらに意識を高め、生徒の主体的な活動にしていく。	B ①学年や教師による差があり、徹底がもう一步である。教職員の共通理解・共通実践を見届け徹底する。 ②③来年度も引き続き取り組む。
3	○PTA活動の各専門委員会とでは、担当教諭と連携し、実施。おやじの会・学校応援団組織が学校教育活動に参加する場面が多くなり、学校環境整備に協力。	○家庭との連携が密に行えたか。 ○PTA活動に積極的にかかわれたか。 ○PTA行事は効果的に行えたか。 ○地域との連携はうまくいったか。	①週休日の授業参観や保護者会の実施で保護者の来校の機会を増やす。 ②資源回収や奉仕作業等の教職員や生徒の参加によるPTA活動への協力。 ③「おやじの会」の参加と職員が率先して樹木の剪定等進める。	①日程調整、連絡を密にし多くの参加者を募る。 ②担当を中心に事業の充実をさせる。 ③PTA組織、自治会等と教職員との連携を図り、多くの参加者を募る。	①多くの保護者が参加した。 ②担当を中心として組織的運営ができた。今後も継続させていく。 ③人数を増やし、継続させていく。	B ①保護者への家庭教育充実のための情報提供を進めていく。 ②地域へ通知の配布方法の工夫を考え、来年度も引き続き取り組む。 ③活動内容の工夫と保護者の参加数を増やす。
4	○生徒指導体制の確立化により落ち着いた学校生活を生徒たちは送れている。	○問題行動発生時の連絡体制や組織は、職員一丸となった体制が確立されていたか。 ○課題の早期発見、早期対応に努められたか ○全教科全領域で人権教育の視点を踏まえた指導が行えたか。	①週1回の生徒指導部会、教育相談部会の実施と学年内での情報の共有化。 ②課題を持つ生徒に視点をあてた指導。(欠席生徒の状況の把握) ③スキル教育の実施	①生徒指導部会、教育相談部会で共通理解と情報交換。併せて指導方針の決定で早期発見・早期対応。 ②報・連・相の徹底 ③各学年で発達の段階に応じたスキル教育の実施	①早期対応に向けた取り組みは、どの学年も共通に実施できた。指導面で学年間のつながりを意識したい。 ②報・連・相の徹底が各学年を通じほぼ同じ認識で行われた。 ③スキル教育が計画的に実施できた。	B ○積極的生徒指導を実践するために、問題行動に対する共通認識と早期発見・早期対応を徹底させる。学年間で指導にムラがないようにする。 ○スキル教育の指導のための資料の充実を図る。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成27年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○小中一貫教育は毎年の積み重ねが大切。生徒の発表の仕方など小学校で培われたものが中学校でも活かされている。 ○2年生の立志式を各クラスで参観したが、自分の目標を発表する生徒も立派であった。また、それを静かに聞く生徒の姿もすばらしかった。 ○通学の様子がよかった。	
○掲示物の整備や校庭の樹木等の手入れが行き届いている。 ○教員の一人一事業の報告では、具体的な活動をしている。職員が目で見える活動により意識も高まる。	
○一人一人の志を大切に、夢に実現に向けてがんばってほしい。 ○携帯電話の使い方等も家庭でよく話し合っているように学校から働きかけをしてほしい。 ○学校をあげて地域との関わりをもち、中学生が地域に顔を出すことが大切。 ○部活動や文化活動での活躍が素晴らしい。	
○積極的な生徒指導の取組の中で、生徒一人一人に具体的な目標を持たせていくことは大切なこと立志式のような取組はこれからも継続してほしい。	